

ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第4回）

議事要旨

1. 日時

令和4年4月27日（水） 15:00～17:00

2. 場所

WEB会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員：

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、寺田 麻佑（国際基督教大学教養学部上級准教授）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

（2）総務省：

野崎電波部長、荻原電波政策課長、翁長移動通信課長、三木監視管理室長、近藤監視管理室課長補佐、伊藤移動通信課課長補佐

4. 議事

（1）開会

（2）議事

- ・教育現場におけるアマチュア無線の現状等
- ・電波利用環境確保の現状等について

（3）閉会

5. 議事の経過

○教育現場におけるアマチュア無線の現状等について、ヒアリングを実施。

（学校アマチュア無線部の活動の傾向、青少年のアマチュア無線への印象や魅力、教育・人材育成におけるアマチュア無線の有用性、青少年のアマチュア無線を楽しむ際の現状や悩み、青少年等の初心者に対する指導のあり方、印象深かった瞬間など。）

○構成員及び発表者から次のような意見があった。

○高校のアマチュア無線部は全国で数十校程度になっていると思われ、部員減や先生の転勤等による指導者不足がその要因に掲げられる。無線部が活動している学校は、毎年新入生が相当数入るといった状況が続いており、部活動を運営できる環境があれば生徒は惹かれていくということだと思ふ。

○学校の先生は大変忙しくなっており、地域のアマチュア無線クラブの活用が必要ではないか。その際、教

育の観点で先生は青少年の接し方について研修等を受ける機会があり色々と配慮して指導されてきており、青少年への接し方等の指導者育成のための研修なども有効ではないか。

- 青少年にアマチュア無線そのものを教えるのはもちろんだが、アマチュア無線を通してどのような人間に育って欲しいかということが大事。ルールやマナー自体が何故あるのかなど、成長に繋がる指導が必要。
- 青少年とその保護者など、まったく個人で始めるニューカマーにとって手続きがよりわかりやすくなるといい。
- 高校アマチュア無線部の大会でも甲子園のようなブランディングが有効。無線通信界の大学や企業へのアピールの場となるような盛り上げも検討するとよい。
- 資格取得の面ではeラーニングの活用が進んでいる。eラーニングであれば、郊外からの試験・講習会場への移動や保護者同伴等の負担の減少、勉強時間の増加にも繋がる。
- 文理融合で文系理系にこだわらないアマチュア無線を楽しむという環境を作っておけることは大事なことではないか。
- アマチュア無線部の生徒は、温かい雰囲気を作れる、自分の工学系スキルを人の役に立つことで使おうという意識をもっているなど、アマチュア無線を通じてコミュニケーション能力を養える点で社会に求められる人材になっていけると思われる。

- 電波利用環境確保の現状等について説明。
- 構成員から次のような意見があった。
- 日本アマチュア無線連盟においても、都道府県ごとの監査指導委員会の活動として、JARL ガイダンス局の活用や周知啓蒙活動等が行われている。
- 初心者などは、マナーの悪い運用者とのやり取りでアマチュア無線をやめてしまうケースもあると聞く。安心してアマチュア無線を楽しんでいただき、継続して知識を深めていただくためにも、電波利用環境の確保が望まれる。
- 養成課程の講習会でもコールサインを言わなければいけないと注意されている。アマチュア無線の制度の周知啓発パンフレットなどがあれば、活用できるのではないか。
- 無線機の販売について、免許情報告知制度の他に、何か検討ができないか。一方、販売規制を厳しくしすぎると、アマチュア無線に入りづらくもなる。
- 人工知能技術（AI）の活用による電波監視業務について、調査研究等を行ってもよいのではないか。
- 周知啓発について、いろいろなメディア、インターネットメディアなども活用するとよいのではないか。

以 上